

歴史散歩

れきしさんぽ No.38

善導寺の文化財（1）建造物編



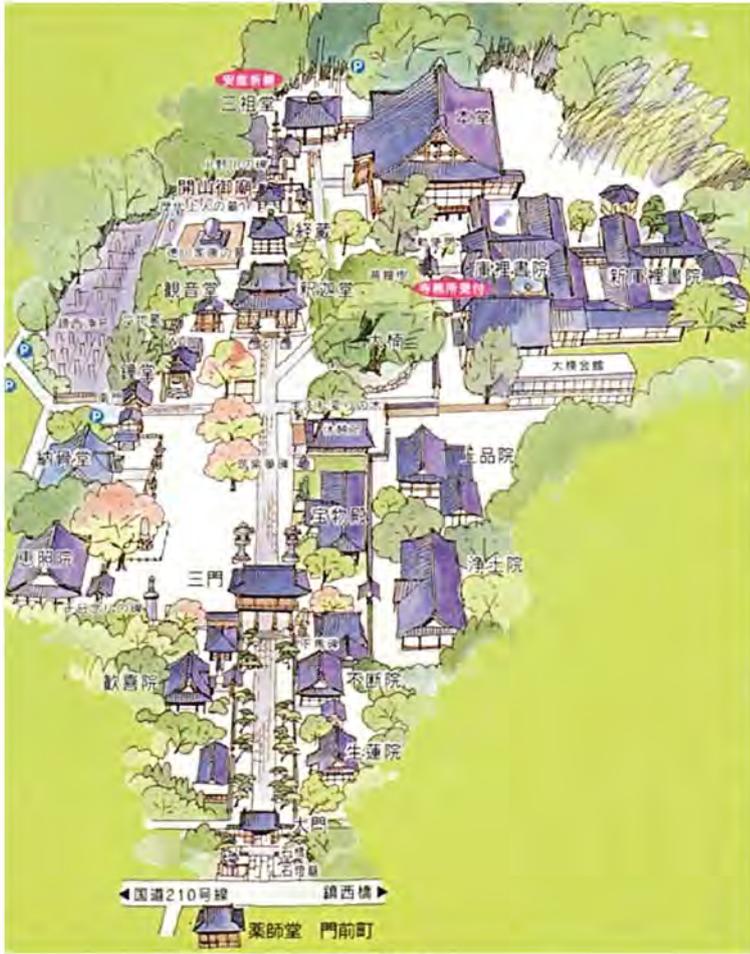
重要文化財建造物の本堂

久留米市善導寺町にある大本山善導寺は、承元2年（1208）浄土宗の開祖法然上人の跡を継いで浄土宗2世となった高弟、聖光上人（鎮西上人、弁長上人）が、筑後国在国司、押領使を勤めた地元の有力武士、草野氏の援助によって開かれた歴史を持つ古刹です。

800年の歴史の中には、多くの子院や塔頭を抱え繁栄した時期や、兵火を受け苦しい時期もありました。特に戦国時代末期の天正12年（1584）は、草野氏が太宰府を離れて龍造寺方に付いたことが太宰府の怒りを呼び、戸次道雪の軍によって法主以下38人も関係者が放光寺で殺害され、善導寺も焼き討ちされる事件が起きました。この事件は善導寺最大の法難として、現在も12月に山本町の放光寺跡で追善法要が営まれています。さらにその3年後、草野氏が豊臣秀吉によって滅ばされると保護者を失い、善導寺は衰亡の危機を迎えました。

江戸時代に入ると、新たに筑後国主となった田中氏の保護を受けて復興し、徳川家康を祀る東照宮が置かれています。その後久留米藩主となった有馬家からも500石の寺領を受けていました。

明治維新を迎えると藩の保護を失い、土地や建物を売却するなど経営に苦しむ時期もありましたがその苦難も乗り越え、現在も浄土宗の九州を代表する念仏道場として多数の方が訪れています。



境内図

三門

安政6年(1859)に建築された入母屋造、2階建ての門です。現在書院の来迎殿に安置されている二十五菩薩来迎像は、本来この門の2階に安置されていました。

釈迦堂

昭和●年に比叡山延暦寺の根本中堂を参考にして建てられた入母屋造、重層の建物です。内部には市指定文化財の木造釈迦如来坐像が安置されています。

経蔵(福岡県指定有形文化財 平成17年2月23日)

寛文11年(1671)、福岡県三井郡北野町高島の鹿毛甚右エ門によって寄進された建物です。建物の中には黄檗版一切経が納められた八角型の輪蔵が据えられています。輪蔵は本来それを回転させる



大門

善導寺の木造建造物群

善導寺は約15,000坪の広大な寺地を有し、その境内には8棟の重要文化財建造物、1棟の県指定文化財建造物をはじめとして、多くの木造建造物があります。

薬師堂

境内の最も東側に配置された正面3間、奥行4間の西向き入母屋造りの棧瓦葺き建物です。内部には薬師如来坐像が安置され、江戸時代後期の建築と考えられている建物です。

大門(重要文化財 昭和63年指定)

薬師堂を出て、商店街を通過する市道を渡り、石畳の参道に入ると最初に見える建物です。境内の建物の中で最も古い慶安4年(1651)に建築された建物です。切妻造、本瓦葺きの四脚門で、善導寺の山号である「終南山」の額が掲げられています。左右には2間分の袖塀が付属しています。

ことによりお経を読んだことと同じ功德があるとされていますが、老朽化により現在は回転しない状態になっています。台風や地震の被害を受けていたため、平成17年度に屋根や壁などの修理を行いました。

御廟

安政元年(1854)に建築された、棧瓦葺の方三間、宝形造の建物。内部には善導寺を開いた聖光上人のお墓があります。墓石は五輪塔と呼ばれる形式のもので、積まれた石は上から順に宇宙を構成する空・風・火・水・



経蔵



三祖堂

地を表わすとされています。その中の円筒形の石には、四方に梵字が刻まれています。梵字は薬研彫りという断面がV字形になる鎌倉時代に流行した手法で彫られています。下の台石には、「専修念仏師 弁阿聖霊墓 正助行不退 遂往生極楽」と聖光上人を称えた字句が彫られています。

三祖堂

石畳の参道の突き当りにある建物です。堂内には向かって右側に浄土宗の元祖「法然上人」、中央に中国浄土宗の高僧で法然上人に大きな影響を与えた高祖「善導大師」、左側には浄土宗二祖「聖光上人」の三体の木像が安置されていることから三祖堂と呼ばれています。このうち「木造善導大師坐像」と聖光上人を映した「木造大紹正宗国師坐像」は重要文化財の指定を受けています。

建物は明治9年に工事を開始し、明治11年に落成した桁行12.6m、梁間13.3mの規模を持つもので、平成22・23年度に屋根などの修理を実施したところ、一部に赤く塗られた部材が発見

され、明治8年に解体された徳川家康霊屋の部材が利用されていることがわかりました。

徳川家康霊屋は経蔵の南側にあった大規模な建物でしたが、明治時代になると建物は解体され、現在は巨大な徳川家康供養塔だけが残されています。

本堂（重要文化財 昭和63年12月19日指定）

安永2年（1773）の火災によって旧本堂が焼失したため、天明6（1786）年に再建された建物です。間口17.5間、奥行17間、面積963㎡と九州の寺院本堂建築の中でも最大級の建物です。入母屋造、本瓦葺、豊後白杵の山崎英十郎を棟梁として建てられたと伝えられています。

屋根の上には大きな葵紋5個が並んでいます。江戸時代に石高500石を拝領していたためと言われています。正面の階段は天皇の使いである勅使が参拝することを想定し、中央を勅使、その両脇を左大臣と右大臣が並んで昇殿できるように柱が配されたと伝えられています。本尊は鎌倉時代の作と伝えられる木造阿弥陀如来坐像で、向って右には観世音菩薩坐像、左に勢至菩薩坐像が配されています。平成16年度～17年度にかけて、建具（雨戸・障子）、縁板、縁下、壁などの修復工事がなされています。

広間（重要文化財 平成12年12月27日指定）

本堂の東側にある桁行24.9m、梁間7.0mの規模を持ち、東西に長い入母屋造の建物です。銅版葺きの表玄関門を潜り、土堀の中に入ると、特別な客人を迎える正面玄関があります。玄関上部の唐破風には龍虎や彩色された花などの彫刻が復元されています。東側の内玄関付近が現在寺務所として使用されています。



広間・書院・大庫裏などの建物

書院

(重要文化財 平成12年12月27日指定)

本堂と広間の間からわずかに茅葺の建物が見えますが、実際は桁行17.8m、梁間7.9mの東西に長い大書院と、桁行11.8m、梁間7.9mの南北に長い小書院からなる大きな建物です。保存修理前は棧瓦葺きでしたが、修理中の調査で茅葺であったことが判明し、建築当初の茅葺に復元されました。大書院の北廊下には水琴窟が設けられています。

役寮及び対面所 (重要文化財 平成12年12月27日指定)

参道側からは全く見えませんが、大書院と広間に接続する建物です。桁行8.9m、梁間6.9mの切妻造、これも棧瓦葺から茅葺に復元された役寮、桁行8.0m、梁間5.9mの対面所からなる建物です。

その東半部にあった桁行11間、梁間4間の建物は、明治時代に入って久留米藩の保護を失い、経営に苦しんでいた善導寺が、明治5年(1872)に末寺の北野町専称寺へ売却しています。その後、跡地には中蔵が置かれていましたが、今回の修理に伴う調査によって、専称寺にその建物が残されていることが判明したことは大きな驚きでした。そのため建物を専称寺から再び移築することになり、本来の場所に復元しています。

大庫裏 (重要文化財 平成12年12月27日指定)

大樟の北側にある桁行15.9m、梁間12.0mの大きな建物です。僧侶が居住するための施設であることから、延享5年の火災後、最も早く再建されています。内部は広い土間と板の間があります。

釜屋 (重要文化財 平成12年12月27日指定)

大庫裏の北側にある桁行11.9m、梁間8.0mの建物で、内部には3口の焚き口を持つ半地下式の大きなカマドや広い土間、板の間があります。本来カマドは庫裏の中に設けられることが多く、カマドのために別棟を建てることは珍しい例です。発掘調査の結果により、善導寺でも延享火災の前には大カマドが大庫裏内にあったことが判明していますが、大庫裏再建の際に釜屋を別棟としています。

中蔵 (重要文化財 平成12年12月27日指定)

桁行11.6m、梁間4.2m、切妻造の建物で、寛政6年(1794)に味噌蔵として建てられた建物です。内部は1階が土間、2階は板の間となっています。北野専称寺の建物が移築復元されたため、修理工事前には釜屋の西側にありましたが、修理後は釜屋の北側へ移築されています。



◆歴史散歩No. 36◆

平成23年3月

発行 久留米市文化観光部文化財保護課
〒830-8520 久留米市城南町15-3

文化観光部文化財保護課 0942-30-9225

久留米市埋蔵文化財センター 0942-34-4995

久留米文化財収蔵館 0942-38-6194